

還ってきます。

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第 2333 号
(2010 年 3 月 19 日発行) より

不特定多数のひとに向けて、何かを発信する仕事をしていると、ときどき、忘れてしまいそうになることがあります。それは、誰のためにそれをしているのか、ということ。演劇活動もそうだし、ワークショップや講演もそうだし、ブログを書いたり、メルマガを発行したりということも…。

何のために？ あるいは、誰のために？

私は、子ども時代、まわりとうまくコミュニケーションがとれないことで、とても苦しみました。中学校に入って、演劇と出会って、「ああ、自分のままに表現していいんだ」という体験をしたことが、いまの私の活動につながっています。

いま、文章を書くこと、それを発信することは、その私の体験を伝えたいと思うか

ら。ワークショップを通して、それを体感してもらいたいと思うから。「自分のままに表現していいんだ」ということを、もっとたくさんのひとに知ってもらいたいから。

でも、そのためにかえって、ときどき、あせりを感じることもあるのです。もっとももっとたくさんのひとに伝えたいのに、もっともこの気持ちを、わかちあいたいの。自分のちからのなさに、しょんぼりしてしまうこともあるのです。

でもね。それって、ものすごく傲慢なことです。だって、私がこの世で生きてできることは、私がコントロールすることじゃない。私にできることは、私にできることに、誠心誠意を尽くすこと。そしたら、あとは、誰かさん(誰?) (笑)におまかせにしているのです。

そこには必要な流れがあって、必要な出会いがあるだけなのです。そんなことも忘れて、自分が何かをしてやろうなんて、ほんとに傲慢…。そのことに気がついたら、すうっところが落ち着きました。

いま、生きていること。生かされていること。こうして、自分の書いた文章を発信できること。受け取ってくれるひととの、出会いがあること。

ワークショップをひらくことができること。その場をともにつくってくれるひとがいること。子どもたちの演劇活動にかかわること。そこで、子どもたちの笑顔と出会えること。

それがひとりであろうと、一億人であろうと、変わりはないのです。むしろ、そのひとりのひとに、何かをはたらきかけることができるなら、私のあのときの苦しみに、意味はあるのです。

そうやってふり返ってみると、全部、全部が、感謝しかないのです。それが見えなくなって、「もっと、もっと…」と思うから、苦しみがはじまるのです。

ありがとう。もう一度、原点に還って、歩きます。何度でも何度でも、そこに還りつづけます。

「僕はもう、あのさそりのように本当にみんなの幸いの為なら僕の身体なんか百ぺん焼いてもかまわない」

——宮澤賢治「銀河鉄道の夜」より

私はとてもそこまではいけないけれども、それでも、私が生きてできることを、もっと本気になって、やっていくことはできるはず。

おそらく…、歩いていくなかで、私は、またこの誓いを忘れるでしょう。忘れて、また、目先のことでおろおろしてしまうことでしょう。でも、そのたびに、またここに還ってきます。何度でも、何度でも、何度でも、還ってきます。

そして、もう一度、歩きます。生きているかぎり…。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。2009年4月、**2000**号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>